

2017年2月14日

文部科学大臣	松野 博一 殿
初等中等教育局長	藤原 誠 殿
高等教育局長	常盤 豊 殿
大学振興課長	角田 喜彦 殿
高校教育改革PTリーダー	水田 功 殿
国際教育課長	榎本 剛 殿
大学入試室長	橋田 裕 殿
外国語教育推進室長	圓入 由美 殿

内閣官房教育再生実行会議担当室長 浅田 和伸 殿

日本独文学会 会長 大宮 勘一郎
日本独文学会 ドイツ語教育部会長 中川 慎二

要 望 書

私たち日本独文学会の会員と同ドイツ語教育部会の会員は、社会・経済・文化のグローバル化が急速に進展し、国際的な流動性が高まり、科学技術の爆発的な進歩と社会の高度化・複雑化や急速な変化に伴い、過去に蓄積された知識や技術のみでは対処できない新たな諸課題が生じている今日において、教育による日本の若者のグローバル化促進および教育評価の多面化が、文部科学省の現在の最重要課題のひとつであると認識しております。研究と教育を通じ、ドイツ語やドイツ語圏の言語文化の理解やその紹介を行ない、日本とドイツ語圏の言語・社会・文化の相互比較に携わる私たちも、グローバル化の進む今日の状況下においては、多様な文化的背景を持つ人々と対話し、相互理解を深め、平和で持続可能な世界を構築する方法について熟慮し、適切かつ必要な行動を取ることでできる人を育てることに努力を傾けております。

しかしながら、教育のグローバル化の試みのなかでも、高大接続システム改革会議「最終報告」（平成28年3月31日）を踏まえ、高大接続改革の着実な実現に向けて、現在検討・準備が進んでいる「高等学校基礎学力テスト（仮称）」やセンター試験に代わる「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の進捗状況を拝見するにあたり、英語以外の外国語の高等教育における位置づけに関する方針が文部科学省によって明確に示されていない現状に、私たちは強い危機感を抱いています。

「高大接続改革の進捗状況について 2 参考資料」に明示されましたように、外国語教育の抜本的強化において、国際的な基準であるヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）が用いられ目標が明確に示され、さらに外国語の多技能を評価する取り組みが重要視されている点に関しては、私たちも同感するところであります。しかしながら、英語以外の外国語の取扱いについて、上記の英語の4技能評価の検討状況も踏まえ検討する

との記述にとどまっております、具体的な言及がありません。

上記「参考資料」に示されているヨーロッパ言語共通参照枠に基づく外国語教育では、ひとつの社会を多言語化する「多言語主義」だけではなく、各々の話者が複数の言語を用いるという意味での「複言語主義」の考えが特に重視されていますが、その際の標準的な目標は「母語+2 言語」の習得であります。我が国がグローバル化に対応した外国語教育を進めていくためには、世界共通語の地位を獲得しつつある英語以外に、他の言語、とりわけ日本と文化的交流の長い歴史を持つ、ドイツ語、フランス語等のヨーロッパの言語や、アジア地域の隣接語等を学ぶことで、この「複言語主義」の意義が今後一層増してゆくと考えられます。このことは、高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜が相互に関連したかたちで行われる高大接続改革の実行にとって、重要な要素であると考えます。

言うまでもなく、言語はそれぞれの文化の土台であり、さまざまな言語が広く学ばれることは、社会全体として世界の多様性への目を養う着実かつ有力な道です。今後の諸改革において、英語以外の外国語教育を縮小してゆくならば、世界への視野を狭めることともなりかねません。殊に現今の進行しつつあるグローバル化の中、EU において中心的地位を占めるドイツの言語・文化を知ることは、若者たちへ世界への広い視野と問題解決能力を与えるきっかけとなると考えております。

真に世界に開かれた豊かな文化を築き上げてゆくためには、多くの人が広汎に英語以外の外国語をも学び、さまざまな文化に直接触れてゆくことがきわめて重要であることが、あらためて認識されつつあるところであります。真のグローバル人材の育成をめざすのであれば、中等教育の教育機関においても英語に加えて複数の言語を学習できる機会をできるだけ多く提供し、それによって、複数の言語や文化に対する若者の関心をより喚起することが必須であると考えます。

以上のことから、私たちは以下のことを要望いたします。

一、学習指導要領の科目としての、英語以外の外国語の存続のための配慮。

一、大学入学希望者学力評価テスト（仮称）における多言語選択（最低でも現行のフランス語、ドイツ語、中国語、韓国語の4言語）の実施。

一、高等学校基礎学力テスト（仮称）における多言語選択の検討。

一、新しい入試制度を審議する際の多言語への配慮。

日本の将来を託す後進の育成のために、中・高等教育機関における外国語教育の一層の充実を心より願います。

以 上